

東京神學大學報

TOKYO UNION  THEOLOGICAL SEMINARY

No. 330

DECEMBER 13, 2024

- 後期始業講演「苦しみの秘義の説教学」 東京神学大学 教授 小 泉 健
- 公開夜間神学講座 夏期研修会主題講演
「教会の姿を追い求めて」 東京神学大学 教授 小 泉 健
- クリスマス礼拝説教「主はまことに人となってくださいました」
日本基督教団柿ノ木坂教会 牧師 渡 邊 義 彦
- 日本伝道を担う青年の集い
説教「信仰は来る」 日本基督教団富士見町教会 牧師 藤 盛 勇 紀
証し「御言葉を運ぶ者としての喜び」 日本基督教団代田教会 牧師 ペ・ジェイ
シンポジウム「だれの信仰？わたしたちの救いの根拠について考える」
東京神学大学 特任准教授 河 野 克 也
- 一般時間講演「福音の説教についての説教—マルティン・ルターの第1ペトロ説教注解—」
日本福音ルーテル三鷹教会 牧師 ルーテル学院大学・日本ルーテル神学校 非常勤講師、チャプレン 高 村 敏 浩
- 2025年度入学者選抜 2月入学者選抜（1月14日願書締切）
3月入学者選抜（2月4日願書締切）



2024. 9. 28 青年の集い

「苦しみの秘義の説教」



東京神学大学 教授 小 泉 健

1 聖書を読む

聖書解釈にあたって、聖書神学はさまざまな方法を提案しています。それらについて、説教は説教にとつての意味を考える必要があり、近代以降の聖書研究は、教会が行ってきた聖書の伝統的な読み方に異議申し立てをするという面もありましたが、大きな貢献もしています。個々の聖書テキストに固有性があり、独自の使信があることを明らかにしたこと、それぞれのテキストを生み出した教会があり、書き手は教会に向って語りかけていることを示したことなどです。こうしたことは、そのまま説教の言葉の性格ともなります。

2 説教の言葉

聖書解釈には、聖書テキスト、書き手、受け取り手という三つの柱があります。近代の聖書神学は当初、テキストから書き手へとさかのぼっていきこうとしました（後の向きの研究）。その後、テキストが受け取り手にどのように働きかけているのかを探究する方法が現れました（前向きの研究）。説教を考える上では、書き手にさかのぼるだけでは不十分です。真の語り手である神が位置づけられていないからです。聖書記者の言葉を通して、神の語りかけを聞きます。

また、テキストの前には、説教

者と聞き手の両者が並んで立ちます。テキストと聞き手の間に説教者が立ちほだかり、テキストを代弁するものではありません。聞き手はテキストそのものと説教者の言葉の双方から語りかけられ、聞き手のもとで意味が生じます。

説教の出来事において、神、聖書テキスト、語り手と聞き手の三つの層がかかわりますが、これに対応して、説教の言葉も、神の御名による言葉（主イエスとその教会の出来事を語る言葉）、テキストの言葉（使徒とその教会の出来事を語る言葉）、わたしたちの言葉（今ここの教会の出来事を語る言葉）の三つの層をなしています。説教には、これらの三種類の言葉が混合しているのです。

説教は、神の御名による言葉が聞こえてくることを目指します。説教は、今ここに生きておられる主イエスを証しし、主イエスの語りかけを取り次ぎます。しかし、人間はいきなり生きておられる主イエスを語り、その言葉を届けることはできません。そうしようとしても、語り手の信仰、思想、イデオロギーを語っているにすぎません。

説教は、聖書テキストを解き明かし、聖書が語りたくて届けています。しかし、聖書講義や釈義の要約は、聖書の言葉についての講演であって、説教ではありません。聖書を読むことは、後ろ向き

に進んで、生きておられる主イエスを語ることに至り、また、前向きに進んで、聖書の前に立つ聞き手に語りかけることに至らねばなりません。

説教は、今日の前にいる聞き手に語りかけます。聞き手がこれによつて生きることができ、また死ぬことができる言葉を届けます。しかし、聞き手に近づくことによつて、聖書からは離れることが起きます。

三重の言葉のうち、一つだけを語るの良しとする説教がありますが、それでは説教になりません。聖書を語ることを通して、主イエスの出来事とわたしたちの出来事が一つとなることを目指します。

3 苦しみの秘義

三種類の言葉が相互に結びつくのは、キリストの秘義にかかわります。主イエスはわたしたちの存在そのものどどこまでも深く結びついてくださいました。とりわけ苦しみが、聖書全体をキリスト論的に解釈するためのカギです。神はわたしたちの苦しみを知り、味わい、苦しみのただ中に到来されます。その中心に、主イエスの謙卑、受肉、苦しみ、死があります。だから主イエスの出来事は、わたしたちの出来事なのです。

学長室から

学長 神代真砂実

クリスマスおめでとうございます。イエス・キリストの御降誕によつて、この世に点された美しい灯りが、広く全世界を照らされますように。そして、そのために伝道献身者が起こされますように。

このコラムを含んだ学報がお手許に届くとき、十一月の入学選抜は終わっているでしょう。これを書いていく時点では出願者の数しかわかりませんが、仮に、その全員が合格したとしても、学部には、なお十数名が必要で、東京神学大学の経営という問題以上に、日本の教会の将来を考えるならば、どうしても伝道者が起こされなければならぬのです。

受験を考えておられる方で、合格できるか心配だという方もおありでしょう。入学選抜の実施にあたっては、その都度の募集定員を示す必要がありますので、たいへんな「狭き門」に見えるかもしれませんが、大丈夫です。募集定員が完全に満たされたことは、実のところ、もう長いことないからです。ですから、神様の召しを感じておられるなら、是非、教会からの推薦をいただいで、受験してください。また、自分が召されていないかどうか、どうぞ祈ってみてください。

神学研修志望の枠での受験もできます。信徒として教会に、キリスト教学校に、キリスト教施設に仕えたいという方のために学部の学びは開放されています。学びたいというお気持ちがあるようでしたら、どうぞ受験を考えてください。

「教会の姿を追い求めて」



東京神学大学 教授 小 泉 健

教会のしるし

それを見れば、「ああ、ここに教会がある」とわかる、そのような「しるし」として、福音主義教会は「福音の説教」と「聖礼典の福音的な執行」を掲げてきました（たとえば、「アウグスブルク信仰告白」第7条）。そこで大切なのは、なぜこの二つなのかです。

イエス・キリストがおられ、働かれ、頭としてご支配くださる。そこに教会があります。説教と聖礼典は、主イエスのご臨在とお働きがあらわになるための手段です。これら二つがある所に主イエスが、そこに教会があると云えます。

それなら、わたしたち自身の説教と聖礼典を通して、主イエスのご臨在が証しされ、主イエスのお働きが届けられているでしょうか。わたしたちは礼拝で、生きておられる主イエスと直面しているのでしょうか。それが肝心です。マタイによる福音書18章15節以下で主イエスは、兄弟姉妹が罪を犯したときどうしたらよいかを教えてくださいました。罪に立ち向かい、罪と戦い、その人を兄弟姉妹として取り戻せと言われました。主イエスがおられ、働かれるので、罪を犯しても、赦しを受け取ることができます。それなら、わたしたちは礼拝で罪を赦されているでしょうか。教会において互いに赦し合う赦しの共同体を形作っているでしょうか。わたしたちの教会がキリストの教会になっているか、また聖

書が語っている教会になっているか、と問われます。

教会の姿

「キリスト教学校にとつての教会」を考えた際にも取り上げたのですが（「学報」328号を併せてご参照ください）、ここでも四つの点から教会の姿を考えます。

1 「福音のコミュニケーション」の場

教会は「神との出会い（福音）は今ここで何であるか」が明らかになるコミュニケーションと捉えることができます。コミュニケーションはいつでも双方向的であつて、神との出会いは自分の外に客観的にあると共に、主体的に身に着けられることでもあります。今ここで「聞く」ことがなされ、その人に力をふるい、信仰が起こされます。コミュニケーションに参与することで、受け取るだけでなく、同時に担い手にもなる。では、わたしたちの教会は、そのようなコミュニケーションのために適した形になっているのでしょうか。

2 礼拝共同体

福音のコミュニケーションは教会のあらゆる営みにおいて行われますが、その中心となるのは礼拝です。礼拝や説教が、牧師／説教者の独演会にならずに、神の民の祝いとなっているでしょうか。

「リタージ」という言葉があります。教会での礼拝行為をさす語

ですが、もともとは「民による共同作業」を意味していました。神の民が皆で神をほめたたえているならば、神の国での礼拝がすでに始まっていると言えましょう。わたしたちの礼拝が共同体的であること、また日常生活と結びついていることが問われます。

3 霊的養成の場

世の中で「スピリチュアル・ブーム」が起きているとされます。そこに見られる霊的な渴きに、教会は応えることができるはずです。「スピリチュアル・ペイン」も注目されています。人間には肉体の痛み、精神的な苦しみのほかに、霊的な痛み（存在や関係がなくなることに對する苦しみ）があるということです。それに対しても、福音こそが答えであり、癒しであるはずで、教会で霊性が養われ、霊的な慰め、癒しが与えられているでしょうか。

4 神の国の橋頭保、開始

教会において神の国が始まっています。愛と赦しによって他者を受け入れる生活を可能にする聖化へと招かれます。他者を信頼し、平和を作り出すようになり、働き成果ではなく存在が重んじられます。聖餐は神の国の喜びの祝いの先取りです。そうしたことが教会の中で実際に味わわれているでしょうか。

教会がもっと教会らしい姿を身につけていくようにと願います。

公開夜間神学講座のご案内

1月〜2月
月曜日

「旧約聖書緒論概説」(全6回)
講師 宮崎 薫
金曜日 「信仰継承のために」(全6回)
講師 長山 道

79期正規生・科目受講生・聴講生を募集しています

2025年度講座

1学期…教会史入門／福音書を読む

II／詩編によって祈り、賛美するために／聖書物語だけじゃない！キリスト教美術

2学期…キリスト教教理の基礎I／ヘブライ書に聴く／礼拝と説教／現代神学入門

3学期…やさしいヒブル語入門／相互教会ケア

教室…日本基督教団 銀座教会
受講日…毎週月曜日・金曜日
時間…午後6時〜8時
受講料…正規生：8万5千円(1年間分)
科目受講生：1万2千円(1講座)
聴講生：1万2千円(1講座)
定員…各講座・30名
締切…正規生、科目受講生：3月7日(金)
聴講生：講座開始日の2週間前

お問い合わせ・資料請求先…

042213214185 学外活動委員会

「主はまことに人となってくださいました」

ルカによる福音書第22章 14～20節



日本基督教団柿ノ木坂教会 牧師 渡 邊 義 彦

二つの、はじめて与ったクリスマスの聖餐のことを話させてください。ひとつは、キリスト者とされてはじめて与った聖餐です。今ひとつは、伝道者とされるべく献身してはじめて与った聖餐です。

教会の礼拝に、わたしは成人してからのはじめて自らの意志をもって、正確には招きにお応えして、通うようになりました。それまでも礼拝に通い教会につながられるチャンス、招きはいくつかありましたがお応えすることはできませんでした。頑なでした。

その年の春のイースターから、かつて高校生のように夏休みの宿題で行ったことのある教会の礼拝に出席するようになりました。この教会を知っていたのは、そのほかにも母、妹が教会員であったことや、牧師先生が謝儀だけでは生活が成り立たなかった頃、開拓伝道ではじまった小さな教会でした、近所の子供たちの勉強を見てくれていて通ったこともあり、教会に繋がるといってお応えはできませんでした。特別なきつかけもありませんでした。このイースターから礼拝に通うようになり、その年のクリスマスに洗礼を授けていただきました。

洗礼を授けられるまで、未受洗の求道者として聖餐に与らない礼拝を幾つも経験しました。どこか所在ない思いをしました。聖餐の間、祈って待ってください、と言われても祈り方もわかりません。けれども、おじいさん、おばあさんたちが真剣に聖餐に与っていることはよくわかりました。クリスマス礼拝で洗礼を授けられてはじめて与った、小さなパン、小さな杯に盛られた甘いぶどう酒、大きな胃袋を満たしようもないわずかなものが、自分の奥深くを満たすものであることを思いました。とても美味しかったのを、今も聖餐を執行する者とされることも忘れることができません。

今ひとつは、神学校のクリスマス礼拝ではじめて与った聖餐です。洗礼を授けていただいてから数年を経て、呼びかけてくださる主の召しを信じて献身し神学校の門を叩きました。机で勉強する などからもう10年以上離れていましたし、やってきた仕事もデスクワークではなく、むしろブルーカラーの仕事でした。入学試験の成績も思わしくなかったですし、入試に際しての面接は本当に厳しいものでした。入学はかうじて許されたものの、成績が思わしくなければあなたの在籍は学部までです、と教務主任の先生から最初に言われました。カリキュラムは大学生とは思えない高校生並に毎時間埋まっています。椅子に座っているのもやつと、授業についていくのもやつとでした。ほっとした最初の夏休みも束の間、当時は前期試験は夏休み明け、宿題もたくさんありました。そのまま後期になだれ込み、

あつという間のクリスマスです。神学校のクリスマス礼拝で聖餐が執行されるとは知りませんでした。この礼拝堂ではじめて与る聖餐。パン皿を、杯の盆を隣の席の人に渡し与る、という所作もはじめてのことでした。けれどもやはり、小さなパン、小さな杯に盛られたぶどうジュース。ああ、ここでも同じ恵みに与れるのだ、なんとかここまで来ることができた、やっていけるかもしれない、と思いました。

主イエスは「苦しみを受ける前に、あなたがたと共にこの過越の食事をした」と、わたしは切に願っていたと言われました。ルカだけが書き残してくれた主の御言葉です。

旧約の歴史の中で神の民によって祝われてきた過越の食事のほんとうの意味を啓き示してください。主は御自身を十字架の死に渡されて、十字架に流される血、裂かれる体を指し示す聖餐をあらかじめ制定なさいました。弟子たちには、この夜、このことの意味はまだ隠されたままでした。しかし、復活なさった主と共に彼らは、年一回祝われる過越の食事とは異なって、主が昇天なさるまで幾度も聖餐の食事を祝っていたのでしよう。弟子たちは、聖霊が降ると共に、直ちに御言葉と洗礼、聖餐によって教会を建ててゆきます。

赤ん坊としてお生まれになったことは、神の御子が、ほんとうに人の子として生まれてくださったことでした。わたしたちと同じように、お腹が空いた、寒い、暑いを経験され、悲しい、うれしいを感じ、ときとして怒りさえも経験してくださる方として生まれてくださいました。

まことに神であるお方が、まことに人として、弟子たちと共に聖餐の食卓に着いてくださいます。聖餐は、人にこそ必要です。人は、この聖餐に主の命をいただくからです。

主は、「言っておくが、神の国で過越が成し遂げられるまで、わたしはこの過越の食事をとることとはない」「言っておくが、神の国が来るまで、わたしは今後どうの实から作ったものを飲むことは決してあるまい」とおっしゃいました。礼拝堂に据えられている聖餐の小さな食卓は、天につながる食卓です。大きな食卓が天に開かれることを待ち望みながら、ひとつひとつ開かれる小さな食卓を道標として歩みます。終わりのときには、神であり、人である主がまことに聖餐の食卓の主人でいてくださることを、すべての人が知ることでしよう。約束された大きな祝いが開かれるのを待ち望し、ひとつひとつ開かれる小さな祝いを大切にたどりたい、そう思います。

日本伝道を担う青年の集い

説教「信仰は来る」

ガラテヤの信徒への手紙 2章 15～21節

日本基督教団富士見町教会 牧師 藤 盛 勇 紀



今年の「青年の集い」のプログラムは、大きな特徴があります。通常、こうした集会では最初に礼拝があるのですが、今回は礼拝が最後ということ。この構成は神学生が中心に作成したと準備委員会でお聞きしました。担当の小泉先生からは、最後の礼拝説教はテーマに即した説教を準備してもよいし、シンポジウムから全体の交わりまでの全体の流れを見た上で、応答的に語ってもよいと思うと言われました。この構成の意図は聞かなかつたのですが、せっかく礼拝を最後に持ってきたのだから、全体を聞いてから、ガラテヤ書のみ言葉を分かち合うことにしました。

ですので原稿はありませんが、最初のシンポジウムからその後皆さんの発言を聞きながら、大いに触発され示唆を与えられて、ラウンジでわくわくしながらメモを用意しました。まず、改めて示され、思い起こしたことは、「聞いてから語る」ことの大切さです。私は教会の主任牧師として、何人もの若い先生方に伝えたことの一つは、聖書の「素読の勧め」です。私自身そうでしたが、神学生時代は多くの科目の勉強に追われて、案外聖書を読む時間が少ないのです。説教の準備をするにも、すぐに注解書や神学書に飛びついてしまいます。しかし、それでは説教が自分の勉強の成果の発表になってしまう。

今年の「青年の集い」のプログラムは、大きな特徴があります。通常、こうした集会では最初に礼拝があるのですが、今回は礼拝が最後ということ。この構成は神学生が中心に作成したと準備委員会でお聞きしました。担当の小泉先生からは、最後の礼拝説教はテーマに即した説教を準備してもよいし、シンポジウムから全体の交わりまでの全体の流れを見た上で、応答的に語ってもよいと思うと言われました。この構成の意図は聞かなかつたのですが、せっかく礼拝を最後に持ってきたのだから、全体を聞いてから、ガラテヤ書のみ言葉を分かち合うことにしました。

多くの資料に当たって、自分のものとして蓄えたものを並べ立てる説教を、誰が聞きたいと思うでしょうか。それでみ言葉が会衆に伝わるでしょうか。「あなたが聞いていないみ言葉を、聞かせたのか？」、そう思うのです。説教者自身が聞いていないみ言葉を、どうして語れるでしょうか。だから、まずはじっくり自分がみ言葉に聞くこと、そこから始めたのです。そのために、まずは自分のバージョンの聖書と他の訳も併せて何度も読むことを勧めてきました。「聞くこと」は、もちろん人を通して聞くことを含んでいます。私は今回、この集いの初めから、予め選んだこのみ言葉を聞かされる思いがしていました。

まず、シンポジウムでの河野先生のご講演から、新鮮で、しかも懐かしい刺激を受けました。私は新約専攻ではありませんし、河野先生のお話を伺うのも初めてでしたが、私の青年時代のもやもやした疑問、そして神学校を卒業してからようやく晴れてきた疑問そのものにぴったり添うテーマでした。実は私も、そこに触れた思いで、この説教のテキストとしてこのガラテヤ書のみ言葉を選んだのです。

河野先生も、「自分の信仰、これだよいか？」と悩んだ若い頃の思い出に触れながら、いわゆる信仰の確かさ・根拠は、自分の経験や感情の鮮明さによるのか、と問うておられました。そして、「本人（自分）の信仰」に拠るのは怪しい、実はもっと広いものだったと。

その応答としてレスポンスの学生から出された発言に、「あなたの信仰があなたを救った」という主のお言葉は、自分にとって辛かった」とありました。これも、私は「そうだそうだ。私の若い頃もそうだった」と心の中で応答していました。このガラテヤ書の言葉では、「人は律法の実行ではなく、ただイエス・キリストへの信仰によって義とされる」という言葉に相当します。表現が変わりながらも、何度も繰り返し返される真理です。そして、昔の私も分かったつもりでした。「信仰義認」という言葉にも慣れていて、「その通りだ」と単純に思っていたのです。

ただ、頭では分かっているけれど、ずつと腑に落ちなかったことは、「信仰（信じること）」は、私の行いではないか？という問いです。「行くこと」ではなく「信じること」だ」と聞いても、「それって、どっちも私じゃないか」と。しかしこの疑問は、誰にも聞えず、青年会の仲間にも牧師にも聞けないまま東神大も卒業しました。それからかなり経って、河野先生が取り上げられた問題が古くから議論されていて、しかしそれは日本語訳の聖書には反映されないまま今日まで来ていることを知ったのです。

今さら思ったのですが、後の3・25に「信仰が現れた」という言葉があります。私が触れたのは、まさにキリストの信実が現れた事実、キリストが来られた事実です。この事実が私の内に「信仰」を引き起こし、応答させられたのです。信仰は、そんなダイナミックな命として「来る」のです。

日本伝道を担う青年の集い

<シンポジウム> 「だれの信仰？わたしたちの 救いの根拠について考える」

東京神学大学 特任准教授
河野 克也



私は牧師家庭の次男として愛媛県の小さな町で生まれ、教会一体型の牧師館で育つ中で自然と信仰が育まれた。私が所属する日本ホーリネス教団は明確な回心経験を強調するため、信仰的な環境で自然に育った私は、周りが推奨する形の「回心経験」とは違うパターンでの自分の信仰がコンプレックスだった。とは言え、自分の幼少期の環境や両親、教会の信徒の祈りと支えによって、現在こうして信仰者、伝道者、また神学教師として一定の役割を果たせている。つまり、私の信仰また私の救いは、私の自発的な決断や行動(だけ)ではなく、環境や周囲の人々の信仰なしには成立しない。マルコ2:1-5では、主イ

エスが、体の麻痺した男性を運んできた人々の信仰を見て、その男性に罪の赦しを宣言する。この男性は自身で信仰の決断をしたのだろうか。翻つて、私の救いの根拠はどこまで私自身の決断によるのだろうか？

マルティン・ルターは、自らの内には神に義と認められるだけの「義」が存在しないことに絶望し、聖書を読む中で、「私たちの外」なるキリストの客観的で完全な「義」こそが救いの根拠であるとの悟りに到達した(この場合、キリストを信じる「私たちの信仰」は、あくまでも神の救いの恵みを受け取るもの、完全に受動的なものであって、私たちの側の功績ではない)。これに対して近年

「キリストは私たちの父なる神の御心に従って、今の悪の世から私たちを救い出そうとして、私たちの罪のためにご自身を献げてくださった」と告げる。共観福音書も、イエスが苦悩のうちに父なる神の御心を受け入れる様子を描く。主イエスは父なる神を徹底的に信頼した(故にピステイス成句は主語的属格!)。私たちが主イエスを信じる信仰は、聖霊により「イエスは主である」と告白し(1コリ12:3)、イエスの死にあずかる洗礼(ロマ6:3)を受けてイエス自身の信頼に結び合わされることによる。私たちの神への信頼は、主イエスの確かな神への信頼に支えられている。

<証し> 「御言葉を運ぶ者としての 喜び」

日本基督教団代田教会 牧師
ペ・ジェイ



「あなたがたの上に聖霊が降ると、あなたがたは力を受ける。そして、エルサレムばかりでなく、ユダヤとサマリアの全土で、また、地の果てに至るまで、わたしの証人となる。」(使徒言行録1:8)

神様は私達一人ひとりを通して奇跡を起こし続けておられる。そして、また私達を通して新しいことを始めようとしておられる。この日本で私が伝道者として歩んで行くに際して一番大変であり、苦しかったことは、言葉・日本語である。私は韓国人。韓国人としてこの日本で御言葉を語ることは、伝道していくことは決して容易なことではない。しかし、不思議にその苦しみあとに、語る喜びが与えられる。私の力では

絶対できない、無理だと思っても、私の思いを超えて神様は不思議にお働きになる。神の言葉は命の言葉だからである。こんなに小さな私を用いて語らせてくださる説教は、命の言葉として私の口から会衆へと及んでいく。会衆からこの世へと及んでいく。だからそこに説教の準備の苦しみにまさる大きな喜びがある。御言葉を運ぶ者としての喜びがある。だから、「地の果てに至るまで、私の証人となる」という御言葉のよ

うに、この日本で主イエスの証人となり、主イエスに遣わされて福音を宣べ伝えていくのである。伝道者として働き始めて10年、この間に私の心に深く刻まれて来た御言葉がある。「喜ぶ人と共に喜び、泣く人と共に泣きなさい」(ローマ12:15) という御言葉である。

教会は不思議な場所だ。赤ちゃんからお年寄りまで様々な年齢の方々が、幅広く集まっている。皆それぞれ違う事柄を抱えておられる。その中で常に喜ぶ人がいれば、泣く人もいる。

しかし、教会は互いに慰め合える場所へと変えられていく。暗闇しか見えず、座り込んでしまう時でも復活の主イエスの光が注ぎ続けられている。ここに主イエスの光の中に「喜ぶ人と共に喜び、泣く人と共に泣く」群れがある。しかも寂しく悲しんでいて涙しか出て来ない状況の中にあるにも関わらず、礼拝の中で讃美の歌が感謝の祈りが響いていく。それは牧師だからこそ、より豊かに

経験させられる幸せなことではないかと思う。

これらの不思議な導き、不思議な出来事、不思議な出会いなど、すべては私が主イエスと出会ってからの、牧師になってからいただいている神様からのプレゼントだ。それは私だけではない。皆さん一人ひとりを通して神様が不思議なことをなさろうとしておられる。新しいことを始めようとしておられる。

その主が今もお私達に「わたしは誰を遣わすべきか」と語りかけ、呼びかけながら探しておられる。私達が「私がおりにあります。私を遣わしてください」と応えることができるよう祈っている。

「福音の説教についての説教 —マルティン・ルターの第1ペトロ説教注解—」

日本福音ルーテル三鷹教会 牧師 ルーテル学院大学・日本ルーテル神学校 非常勤講師、チャプレン

高村 敏 浩



ゲルハルト・エーベリングは、教会の歴史は聖書解釈の歴史であると言う。近年になってその傾向は少し変わりつつあるが、近代の聖書解釈は、もっぱら高等批評が中心である。高等批評もしくは批判的聖書解釈は、テキストには著者が意図した意味だけがあるとし、聖書解釈とはそのただ一つの意味を探索することだとする。著者が意図したただ一つの意味に到達しない(できない)聖書解釈は、無意味だということである。これは、エーベリングの理解するところの教会の歴史の否定であろう。デイビッド・スタインメッツは、『前批判的聖書解釈の優位性について』(The Superiority of Pre-Critical Exegesis)という小論文の中で、このような聖書解釈の試みを批判し、高等批評が用いられるより前の聖書解釈にも意味があると主張する。これには、教父たちや中世の神学者や牧会者、宗教改革者たちの聖書解釈が含まれる。

スタインメッツは、ハイコ・オーベルマンに師事したが、彼らは、特に中世や宗教改革期の聖書解釈の歴史という、比較的新しい分野を確立した。聖書解釈の歴史は、聖書解釈者たちの解釈には有機的なつながりがあるということであり、そのつながりを紐解くという試みだと言えるだろうか。聖書解釈者たちは歴史の中で孤立した存在ではなく、彼ら、彼女らは先行する解釈に触れ、また助けられて自分たちの置かれた時代や環境の中で解釈をし、それはさらに、次の世代によって受容されているということである。

このような理解は、中世後期のカトリック教会からの断絶と、その独自性や特異性ばかりが強調されてきたマルティン・ルターの再評価を可能とした。20世紀初頭、そして第2バチカン公会議以降のプロテスタント教会間、またカトリックとプロテスタントの間、起きた教会一致運動もまた、そのような再評価の後押しをしたことは言うまでもない。ルターが歴史、特に聖書解釈の解釈において果たした役割はとて大なるものである。しかし、それは決して断絶や、彼の先人たちの聖書解釈との決別を意味するのではない。ルターはむしろ、自分が、そして聖書解釈者たちが、聖書解釈の歴史の中に身を置いていることをよく理解していた。事実、ルターがその著作で「聖書のみによつて (sola scriptura)」というラテン語の言葉を使うとき、それはしばしば否定的な意味においてであり、トーマス・ミュンツァーたちのように、聖書解釈には聖書と自分だけで十分であると主張した熱狂主義者たちに対して用いられたのである。

オーベルマンやスタインメッツは、事例を重ねる科学的手法によつて抽出される聖書解釈者の解釈の方法を定めるよりは、個々の解釈へと目を向ける。そこには、通常の方法的枠にあてはまらない、例外的な解釈のケースも含まれる。また、スタインメッツに師事した私の博士論文の指導教授、ティモシー・ウエンガートの同時代、もしくは先行する時代の聖書解釈の比較研究を行うのではなく、対象の聖書解釈者が用いた、もしくは用いたであろう先行する解釈を定めそれと比較することの重要性を説く。

私の博士論文のための研究は、ルターが1522年に行ったペトロの手紙一の説教注解(説教としてなされたものが、編集された注解書として出版された)を扱った。先行する、もしくは同時代人の聖書解釈とルターの聖書解釈を比較し、ルターがテキストの解釈においてどのような影響を受けていたのか、また、それが彼独自の解釈なのかを理解するため、私はルターがいた当時のヴィッテンベルク大学の図書館の蔵書録から、ルターが手にした可能性の高い注解を定め、ルターの解釈と比較した。これらは、標準聖書注解(Glossa ordinaria)もっぱら、ベータからの引用)とリラのニコラウスの注解、また、ロットエルダムのエラスムスの聖書と注解(Annotationes et Paraphrasis)などである。また、1560年代に出版された、ルター派の牧師や神学者によるペトロの手紙一の説教や注解を用いて、ルターがどのようにして次の世代に受け入れられたか(受け入れられなかったか)を見た。また、ルターがこの注解はもともと説教として語られたことから、中世後期から宗教改革期における説教の変化、ルターが訓練され、実際に用いていた修辞学、聖書人文主義などについても考察した。

ルターはペトロの手紙一の内容を、福音説教についての教えであると理解した。たとえば「使徒ペトロ」の「使徒」を、言葉によって福音を伝える人として定義するのであるが、これは、説教が生業である托鉢修道会に属するリラのニコラウス(フランシスコ会士)や、彼が注解を書くために用いたゴッランのニコラウス(ドミニコ会士)の解釈をもとに、ルターが展開させたものである(エラスムスは、そのような解釈に関心がない)。ルターのペトロの手紙一の理解は、高等批評による聖書解釈からは無意味だとされるであろう。しかし、彼が生き、このテキストを解釈したその時代においてとはとても大きな意味があった。そしてまた、それを読み、置かれている文脈の中で福音を聞こうと葛藤する現代の私たちにとつても意味があることは、確かである。

2024年度 神学校日奉仕

Table listing staff members for the 2024 annual service, including names, titles (e.g., 学長, 教授), and affiliations (e.g., 富士見町教会, 久我山教会).

Table listing staff members for the 2024 annual service, including names, titles, and affiliations.

2024年度 「神学生派遣プログラム」奉仕

Table listing student missionaries for the 2024 annual service, including names, titles, and their respective schools or universities.

クリスマス献金のお願い
クリスマスおめでとうございます

「実に、すべての人々に救いをもたらす神の恵みが現れました」(テトス2:11)。
クリスマスにおいて私たちに現わされた神さまの恵みは、「すべての人々に救いをもたらす」ものです。それは、罪の中に陥っていた私たち一人一人を、イエス・キリストの十字架の死による贖いを通して、しっかりと神さまご自身につなぎとめる恵みです。そして、その恵みを、信仰を通して受け入れた私たちは「祝福に満ちた希望、すなわち偉大なる神であり、わたしたちの救い主であるイエス・キリストの栄光の現れを待ち望む」希望に生きるようにされています(同2:13)。
ここで大切なのは、それが「すべての人々に救いをもたらす」恵みであるということです。全ての人々に届けられなければならない恵みであるということです。それを神さまは願っておられるのです。ですから、この恵みについてのよい知らせを宣べ伝える者が、どうしても必要です。伝道者が必要なのです。
東京神学大学は、そのような伝道者の育成のために建てられた神学校です。聖書を重んじ、イエス・キリストの十字架の福音を指し示し、キリストの教会に仕える伝道者を養成する本学の働きへのご理解とお支えをお願いいたします。祈りをもって、献げ物をもって、そして、献身者を送り出すことをもって、東京神学大学をお支えください。よろしくお祈りいたします。

東京神学大学後援会 会長 黒沼 健
東京神学大学 学長 神代 真砂実

ご送金は郵便振替が便利です。
口座番号 00150-5-5032 加入者名 学校法人 東京神学大学

教会賛助金・後援会献金の前年同月比較集計表

2024年10月末

地区	2023年度実績				2024年度実績					
	教会賛助金	後援会献金	合計		教会賛助金		後援会献金		合計	
	金額	金額	金額	達成率 (%)	金額	達成率 (%)	金額	達成率 (%)	金額	達成率 (%)
北海道	200,000	461,300	661,300	57.45	43,384	16.25	269,100	30.44	312,484	27.15
	(267,000)	(884,000)	(1,151,000)		(267,000)		(884,000)		(1,151,000)	
奥羽	100,000	182,000	282,000	21.14	65,000	10.74	243,900	33.46	308,900	23.16
	(605,000)	(729,000)	(1,334,000)		(605,000)		(729,000)		(1,334,000)	
東北	279,000	943,700	1,222,700	37.41	255,055	23.29	757,600	34.86	1,012,655	30.99
	(1,095,000)	(2,173,000)	(3,268,000)		(1,095,000)		(2,173,000)		(3,268,000)	
新潟	34,616	578,400	613,016	40.49	161,800	33.09	525,500	51.27	687,300	45.40
	(489,000)	(1,025,000)	(1,514,000)		(489,000)		(1,025,000)		(1,514,000)	
北関東	83,400	291,000	374,400	24.63	97,200	28.17	272,400	23.18	369,600	24.32
	(345,000)	(1,175,000)	(1,520,000)		(345,000)		(1,175,000)		(1,520,000)	
埼玉	63,000	1,029,370	1,092,370	31.58	122,000	11.05	1,200,310	50.97	1,322,310	38.23
	(1,104,000)	(2,355,000)	(3,459,000)		(1,104,000)		(2,355,000)		(3,459,000)	
東京都	6,029,500	4,253,000	10,282,500	55.14	6,120,800	66.94	4,539,390	47.76	10,660,190	57.16
	(9,144,000)	(9,505,000)	(18,649,000)		(9,144,000)		(9,505,000)		(18,649,000)	
東京西南	2,425,453	2,966,300	5,391,753	36.99	2,801,120	31.60	1,922,300	33.64	4,723,420	32.40
	(8,864,000)	(5,714,000)	(14,578,000)		(8,864,000)		(5,714,000)		(14,578,000)	
東京南	1,063,500	2,008,050	3,071,550	42.31	1,280,800	41.14	2,179,635	52.56	3,460,435	47.66
	(3,113,000)	(4,147,000)	(7,260,000)		(3,113,000)		(4,147,000)		(7,260,000)	
東京北	758,000	771,200	1,529,200	28.39	653,270	18.61	771,810	41.12	1,425,080	26.45
	(3,510,000)	(1,877,000)	(5,387,000)		(3,510,000)		(1,877,000)		(5,387,000)	
東京千葉	1,214,000	2,368,000	3,582,000	69.31	913,000	36.39	1,027,000	38.62	1,940,000	37.54
	(2,509,000)	(2,659,000)	(5,168,000)		(2,509,000)		(2,659,000)		(5,168,000)	
西東京	3,153,433	3,094,200	6,247,633	37.59	3,126,258	31.39	2,727,600	40.96	5,853,858	35.22
	(9,960,000)	(6,659,000)	(16,619,000)		(9,960,000)		(6,659,000)		(16,619,000)	
神奈川	3,249,147	6,217,030	9,466,177	52.63	3,146,740	34.79	9,260,981	103.60	12,407,721	68.99
	(9,046,000)	(8,939,000)	(17,985,000)		(9,046,000)		(8,939,000)		(17,985,000)	
東海	1,496,214	1,963,000	3,459,214	36.68	1,697,354	43.20	2,143,500	38.96	3,840,854	40.73
	(3,929,000)	(5,502,000)	(9,431,000)		(3,929,000)		(5,502,000)		(9,431,000)	
北陸	538,611	1,023,155	1,561,766	39.67	404,000	28.33	239,000	9.52	643,000	16.33
	(1,426,000)	(2,511,000)	(3,937,000)		(1,426,000)		(2,511,000)		(3,937,000)	
愛岐三	454,850	494,000	948,850	19.97	650,200	24.93	1,013,800	47.29	1,664,000	35.02
	(2,608,000)	(2,144,000)	(4,752,000)		(2,608,000)		(2,144,000)		(4,752,000)	
京都	53,950	500,000	553,950	59.56	113,100	39.13	533,000	83.15	646,100	69.47
	(289,000)	(641,000)	(930,000)		(289,000)		(641,000)		(930,000)	
大阪	1,179,365	1,915,327	3,094,692	29.53	2,626,499	54.68	1,712,641	30.17	4,339,140	41.41
	(4,803,000)	(5,676,000)	(10,479,000)		(4,803,000)		(5,676,000)		(10,479,000)	
兵庫	378,400	76,000	454,400	25.15	357,000	27.21	149,500	30.20	506,500	28.03
	(1,312,000)	(495,000)	(1,807,000)		(1,312,000)		(495,000)		(1,807,000)	
東中国	0	136,000	136,000	9.13	0	0.00	679,000	79.51	679,000	45.57
	(636,000)	(854,000)	(1,490,000)		(636,000)		(854,000)		(1,490,000)	
西中国	150,000	77,500	227,500	17.57	47,000	5.72	71,000	15.01	118,000	9.11
	(822,000)	(473,000)	(1,295,000)		(822,000)		(473,000)		(1,295,000)	
四国	461,750	447,080	908,830	20.06	544,750	22.32	48,618,118	2326.23	49,162,868	1085.03
	(2,441,000)	(2,090,000)	(4,531,000)		(2,441,000)		(2,090,000)		(4,531,000)	
九州	435,000	487,000	922,000	28.30	349,726	22.39	855,500	50.44	1,205,226	36.99
	(1,562,000)	(1,696,000)	(3,258,000)		(1,562,000)		(1,696,000)		(3,258,000)	
沖縄	5,000	0	5,000	2.53	0	0.00	0	0.00	0	0.00
	(121,000)	(77,000)	(198,000)		(121,000)		(77,000)		(198,000)	
その他	125,000	1,396,000	1,521,000		55,000		1,639,060		1,694,060	
	()	()	()		()		()		()	
小計	23,931,189	33,678,612	57,609,801	41.15	25,631,056	36.62	83,351,645	119.07	108,982,701	77.84
	(70,000,000)	(70,000,000)	(140,000,000)		(70,000,000)		(70,000,000)		(140,000,000)	
同賛助生金	0	5,423,424	5,423,424	154.95	0		3,056,234	87.32	3,056,234	87.32
	()	(3,500,000)	(3,500,000)		()		(3,500,000)		(3,500,000)	
諸団体	0	720,091	720,091	36.00	0		508,833	25.44	508,833	25.44
	()	(2,000,000)	(2,000,000)		()		(2,000,000)		(2,000,000)	
学費助	0	5,570,000	5,570,000	85.69	0		4,660,000	71.69	4,660,000	71.69
	()	(6,500,000)	(6,500,000)		()		(6,500,000)		(6,500,000)	
奨学金	0	7,802,000	7,802,000	41.06	0		9,755,317	51.34	9,755,317	51.34
	()	(19,000,000)	(19,000,000)		()		(19,000,000)		(19,000,000)	
小計	0	19,515,515	19,515,515	62.95	0		17,980,384	58.00	17,980,384	58.00
	()	(31,000,000)	(31,000,000)		()		(31,000,000)		(31,000,000)	
合計	23,931,189	53,194,127	77,125,316	45.10	25,631,056	36.62	101,332,029	100.33	126,963,085	74.25
	(70,000,000)	(101,000,000)	(171,000,000)		(70,000,000)		(101,000,000)		(171,000,000)	

※()は目標

学 事 往 来

11月23日	11月入学者選抜実施日	1月14日	全学祈祷会
11月27日	11月入学者選抜合格発表	1月17日	公開夜間神学講座3学 期開始
12月4日	修士論文合格発表	1月21日	後期学生総会
12月7日	オープンキャンパス	2月5日	後期授業最終日
12月13日	クリスマス礼拝	2月11～12日	2025年 第560回常務理事会
12月15日	冬期休業開始	2月14日	2月入学者選抜合格発表
12月23日	説教者・渡邊義彦牧師 (柿ノ木坂教会)	2月28日	2024年度大学院前 期課程修了者、学部卒 業者発表
2025年 1月7～9日	第53回教職セミナー 主題「福音の担い手」 伝道者論をめぐって」 後期授業再開	3月3日	公開夜間神学講座3学 期終了
3月4日	3月入学者選抜実施日	3月6日	卒業礼拝、3月入学者 選抜合格発表
3月7日	卒業・修了式	3月7日	第561回常務理事会
3月10日	公開夜間神学講座 修了式	3月10日	東京神学大学 第562回常務理事会
2月17日	第3回東京地区推進委 員会	3月10日	銀座教会
2月24日	第213回定期評議員会、 第256回定期理事会	3月24日	銀座教会
3月10日	第2回資金管理運用委 員会	3月27日	銀座教会
3月17日	第2回投資管理運用委 員会	3月27日	銀座教会
3月24日	第1回財政委員会	3月27日	銀座教会
3月27日	第2回資金管理運用委 員会	3月27日	銀座教会
3月10日	第2回資金管理運用委 員会	3月27日	銀座教会

【理事会関係】

11月25日 第212回定期評議員会、
懇談会、第255回定期理
事会
2025年
第560回常務理事会
1月27日
第561回常務理事会
3月7日
東京神学大学
第562回常務理事会
3月10日
銀座教会

【後援会関係】

2025年
2月17日 第3回東京地区推進委
員会
銀座教会

告 知 板

2025年度 学生募集

「神の御前で、そして、生きている者と死んだ者を
裁くために来られるキリスト・イエスの
御前で、その出現とその御国を思いつつ、
厳かに命じます。御言葉を宣べ伝えなさい。
折が良くても悪くても励みなさい。」
(テモテへの手紙 二 4章1節～2a節)

【2月試験】

◎神学部神学科

一般選抜 募集定員 2名
編入学者選抜 募集定員 10名
出願期間：2025年1月7日(火)
～14日(火)
試験日：2025年2月11日(火)

◎大学院 博士課程前期課程／博士課程後期課程

聖書神学専攻入学者選抜 募集定員 若干名
組織神学専攻入学者選抜 募集定員 若干名
出願期間：2025年1月7日(火)
～14日(火)
試験日：2025年2月11日(火)・
12日(水)

【3月試験】

◎神学部神学科

一般選抜 募集定員 2名
編入学者選抜 募集定員 3名
出願期間：2025年1月28日(火)
～2月4日(火)
試験日：2025年3月4日(火)

資料請求
お問合せ

東京神学大学 教務課入試係
Tel：0422-32-4185
Fax：0422-33-0667
E-mail：tuts@tuts.ac.jp

公 務 出 張

12月7日 オープン・キャンパス
礼拝説教
2025年
1月25～26日
兵庫地区後援会
1月27日 常務理事会、財政委員会
2月17日 東京地区後援会推進委
員会
3月6日 卒業礼拝
3月7日 卒業・修了式
3月10日 常務理事会、資金管理
運用委員会、公開夜間
神学講座修了式

【委員会関係】

2025年
1月27日 第1回財政委員会
3月10日 第2回資金管理運用委
員会
銀座教会

【訃報】

3月24日 定期評議員会、定期理
事会
木村 徹氏
2023年10月8日逝去されま
した。82歳。
(1968年東京神学大学大
院修了)
松山 與志雄氏
2024年9月9日逝去されま
した。92歳。
(1957年東京神学大学大
院修了)

2025年度
前期・後期科目等履修生

出願資格：福音主義のキリスト教会の教
職またはそれに準ずる者で、教員免許取
得のために本学学部科目の履修を希望
し、教授会の審査によって許可された者。

出願期間：

前期／2025年2月21日(金)～
3月6日(木)
後期／2025年7月18日(金)～
7月31日(木)

申込に先立って、必ず教務課主任の
ガイダンスを受けること。

受講料：1単位 20,000円

審査料：10,000円

申し込み・問合せ：教務課

2月上旬から募集要項配付予定です。

二〇二四年十二月十三日発行
東京神学大学報・三三〇号
〒181-0015 東京都三鷹市大沢三一〇一三〇
東京神学大学広報委員会
電 話 〇四二二一三三二一四一八五
F A X 〇四二二一三三二〇六六七
郵便振替 〇〇一五〇一五〇一五〇三三二
<https://www.tuts.ac.jp/>